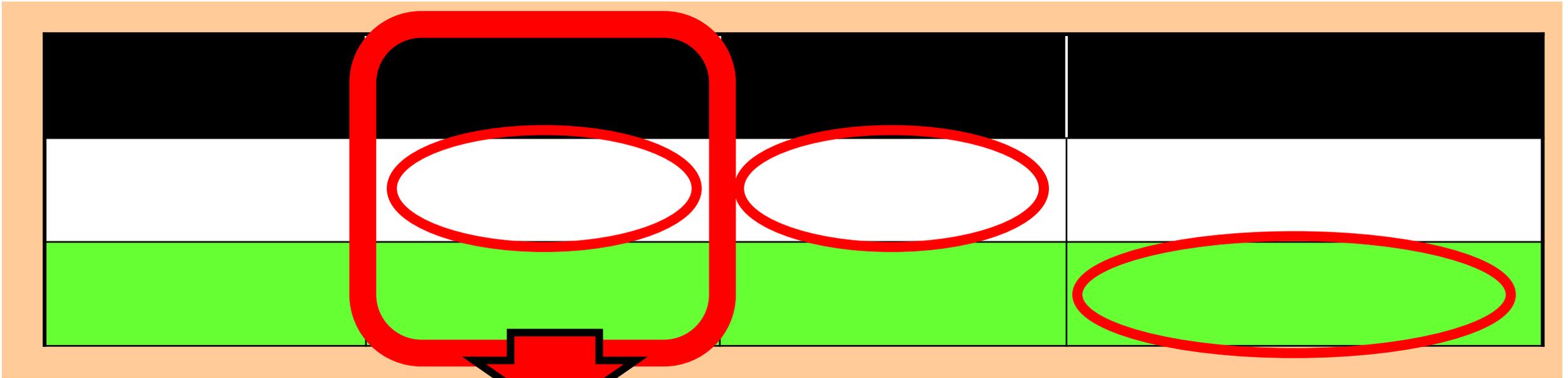
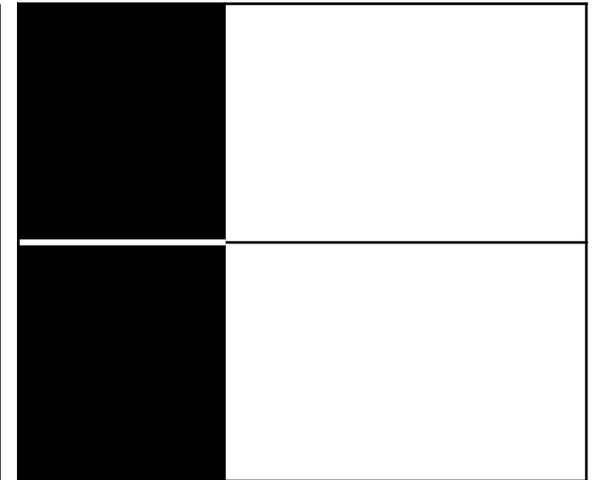


33.



5



33.

(=138)

	8%	30%	28%	14%	5%	4%	12%

35%



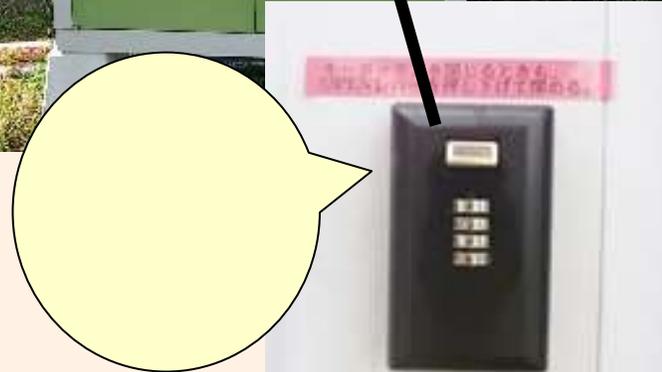
35.

「暗証番号式キーボックス」が
自主防災会と連携共助を促す。

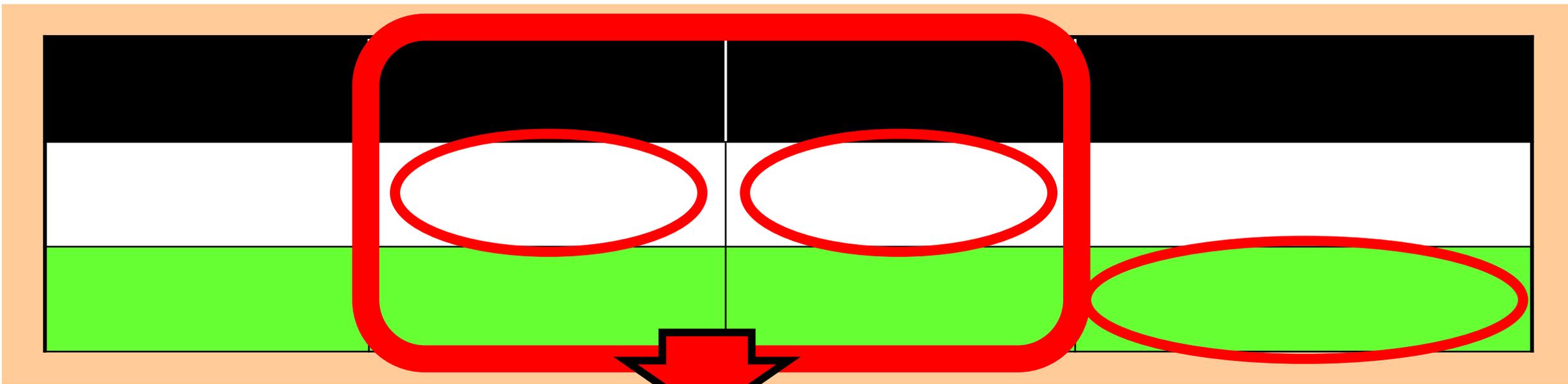
[Redacted text]

[Redacted text]

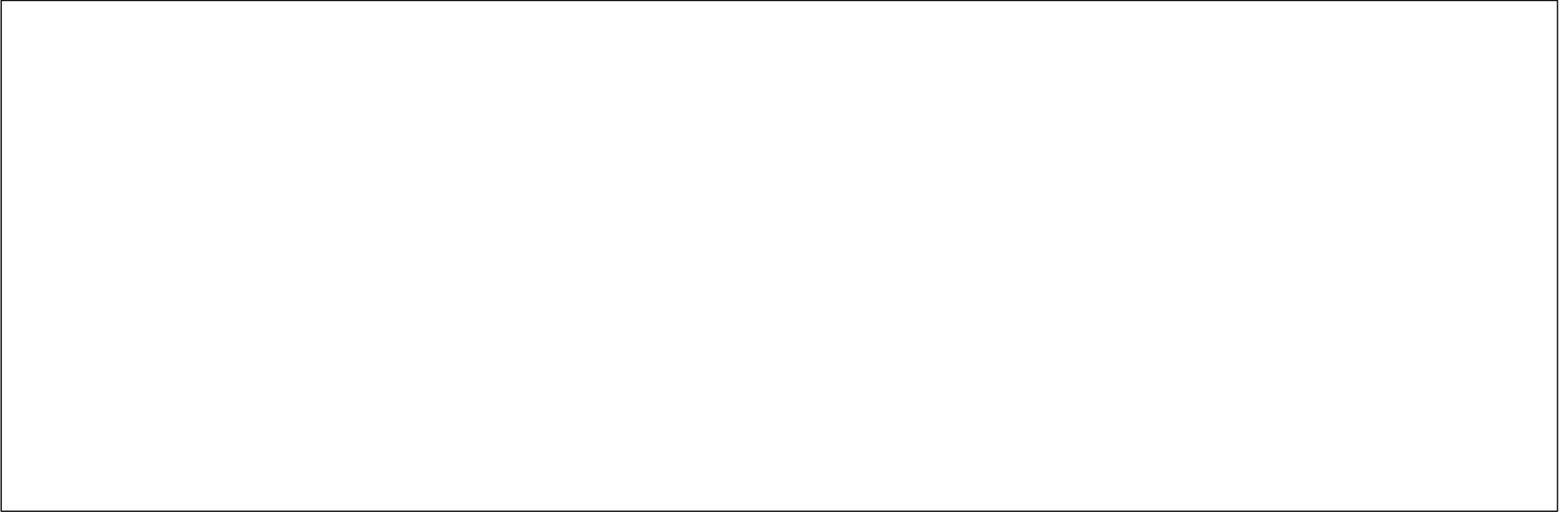
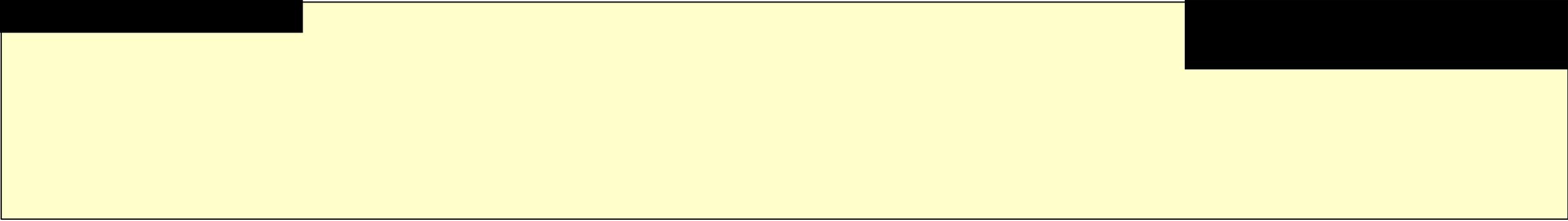
[Redacted text]



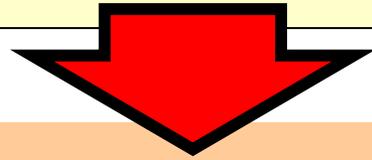
36.



6

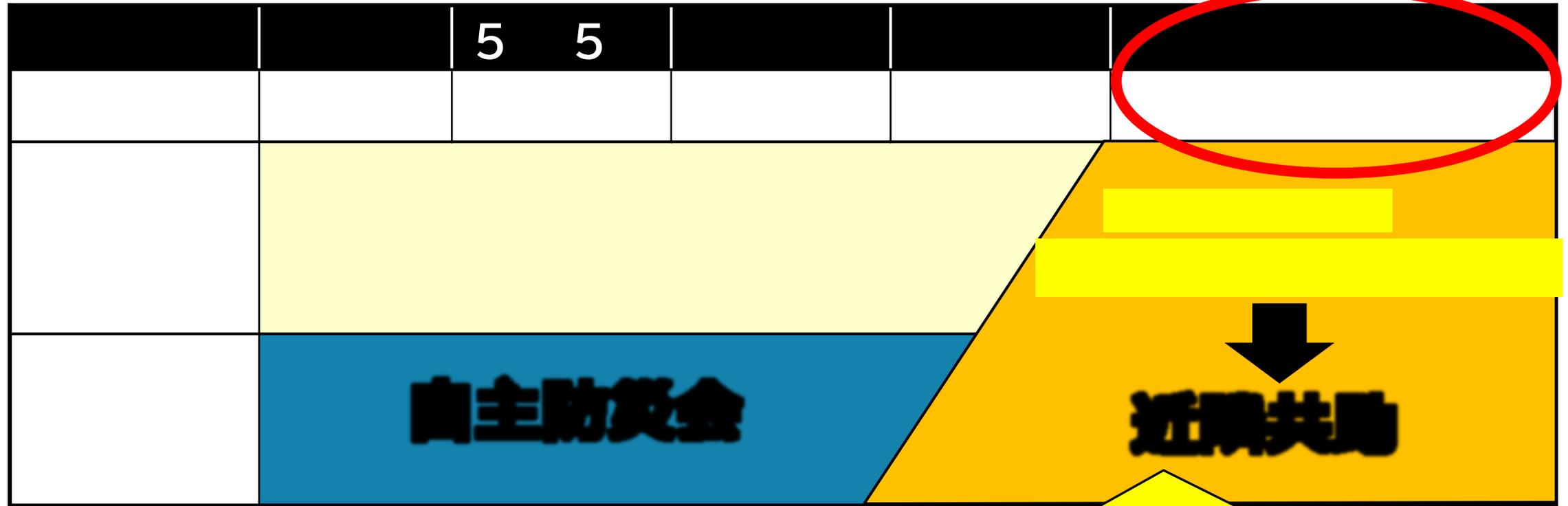


38.

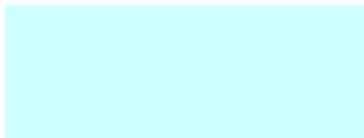


「人」と「道具」が自然に、同時に使う・・・マニュアル不要

■ 防災直後の 被災者の活動主体



「道具」と「協力者」が同時に揃う。



41.



42.



[Redacted text]

[Redacted text]

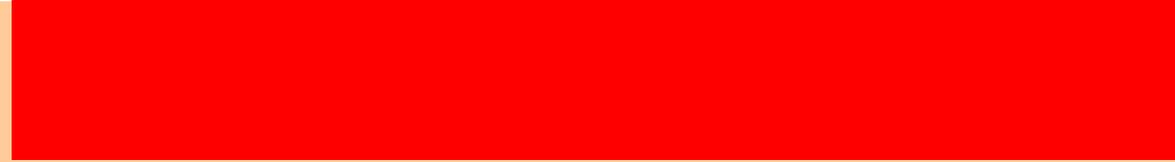
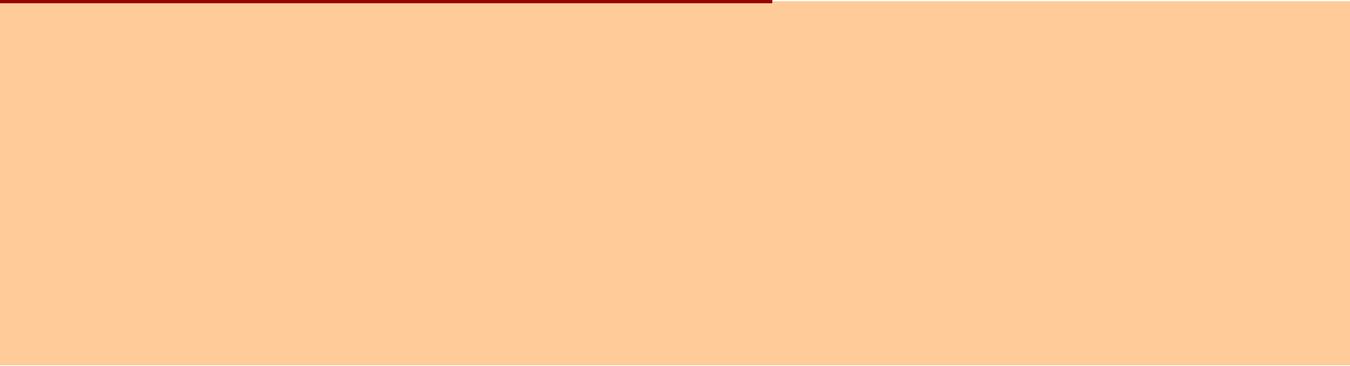
[Redacted text]

[Redacted text]





44.



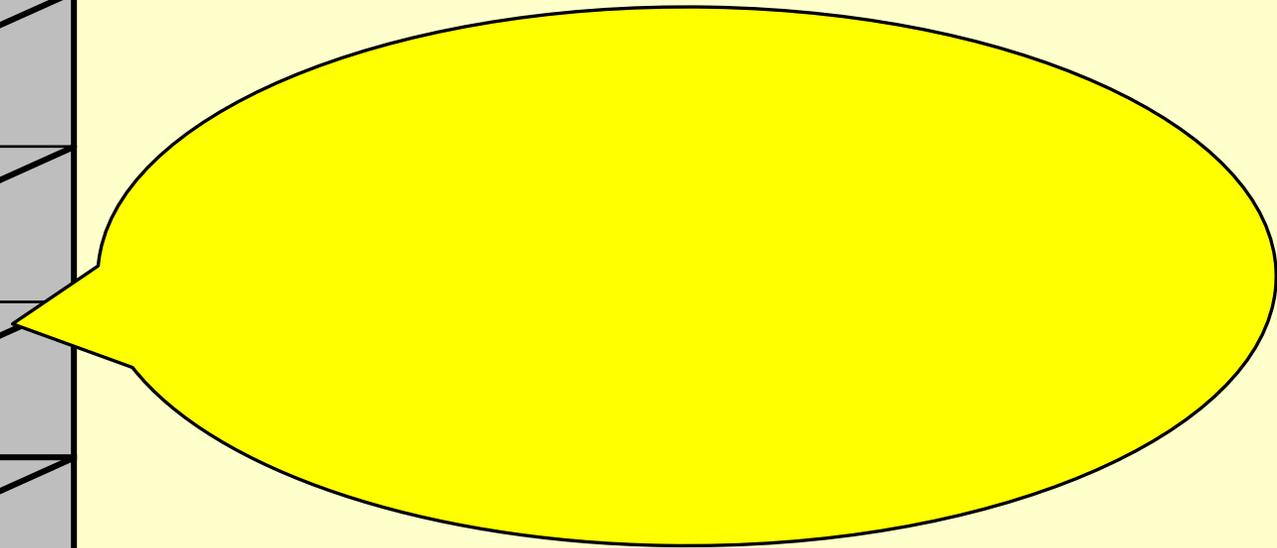
No	
	!



46.

7

2		



47.

8

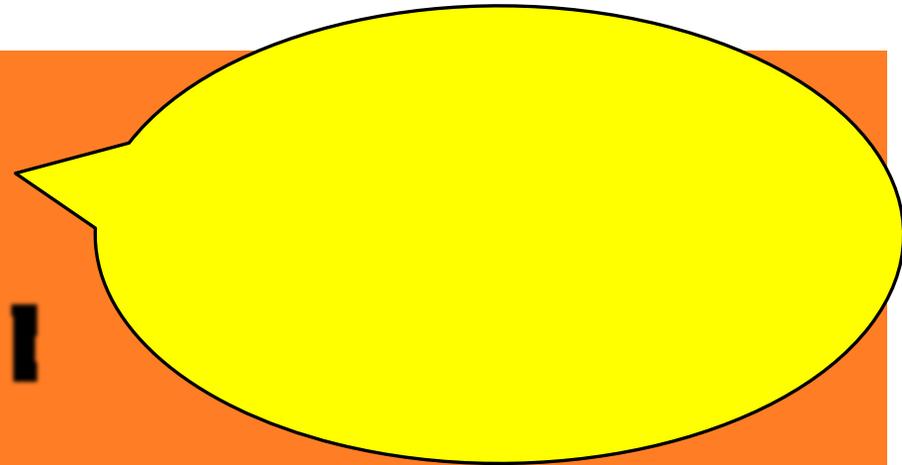
	X	



防災倉庫が 1～2棟しかないと、

■ 後から行ったら、何も残っていない！

■ 鉢合わせしたら、道具の取り合い！



49. 20 50



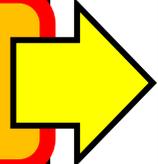
(

	2	4	1
72,377	164,498	68,836	

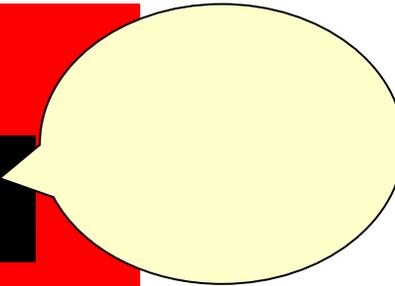
				要救助者		
		910	3,690	3,830	,160	6,29
100 (227)		1.3	5.1		1	9



10	

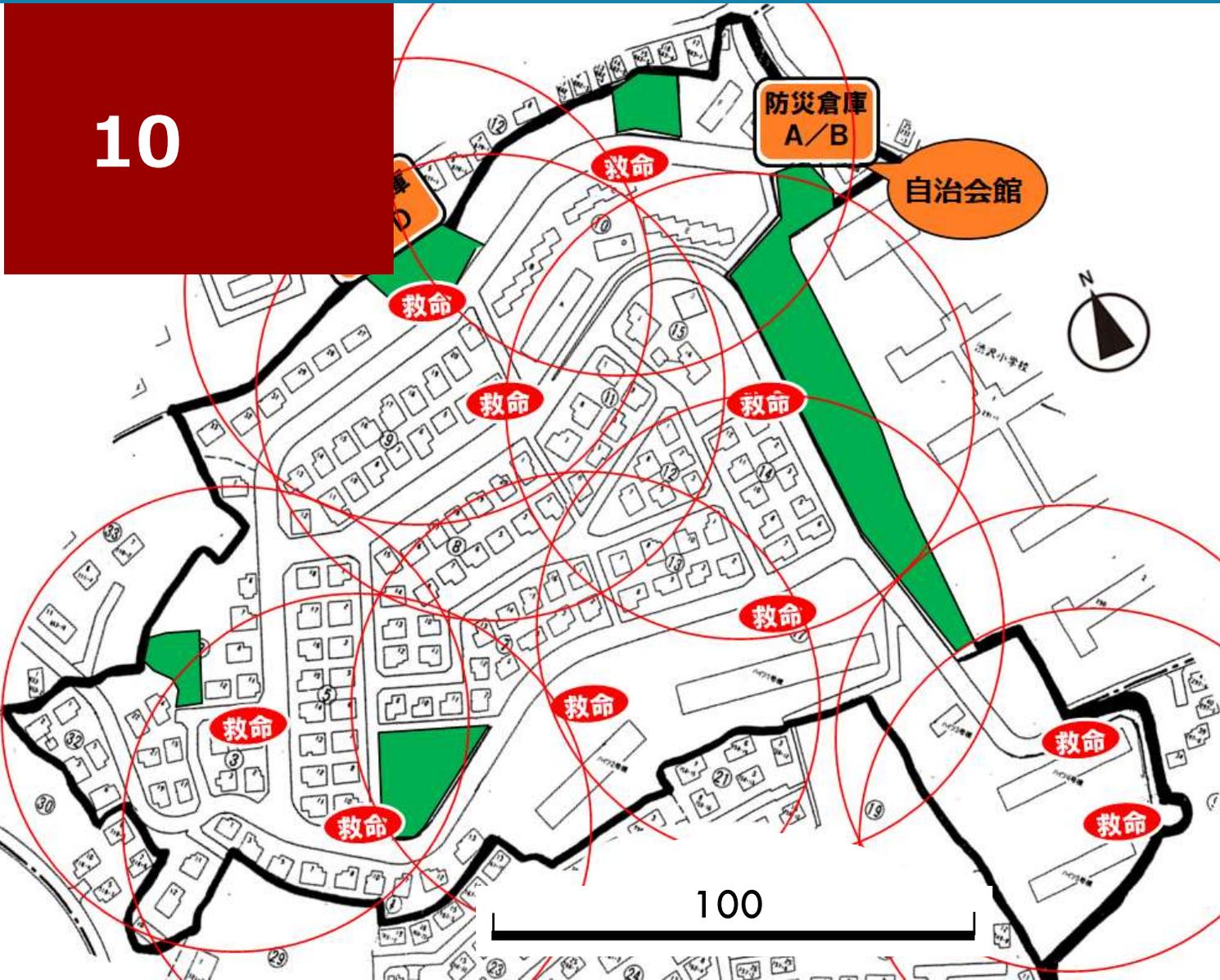


20世帯に
1
救命ボックス：1台



50.

10



10

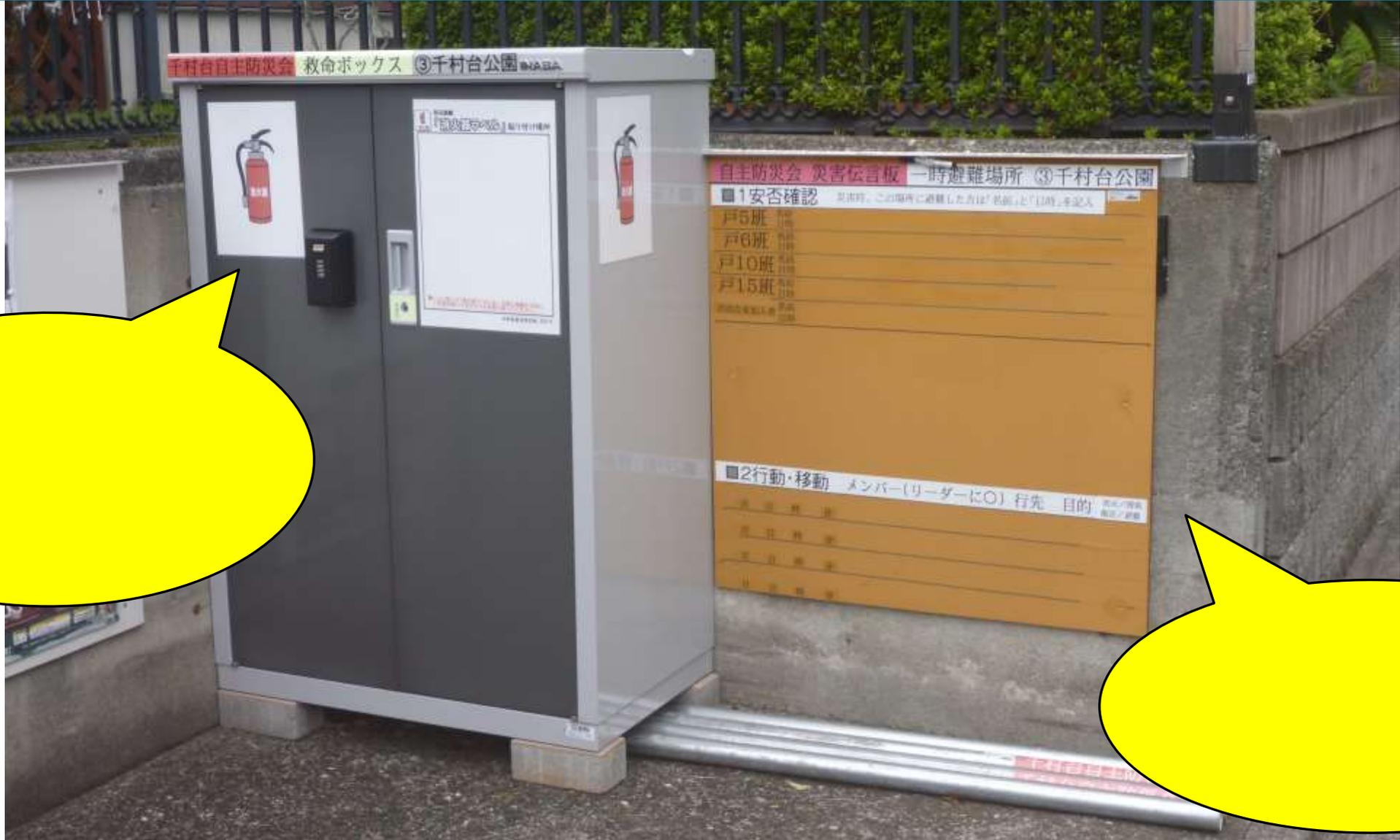
20 40 60m



**「50m圏」は、近隣地域全体の
「互換的レスキューゾーン」**

2

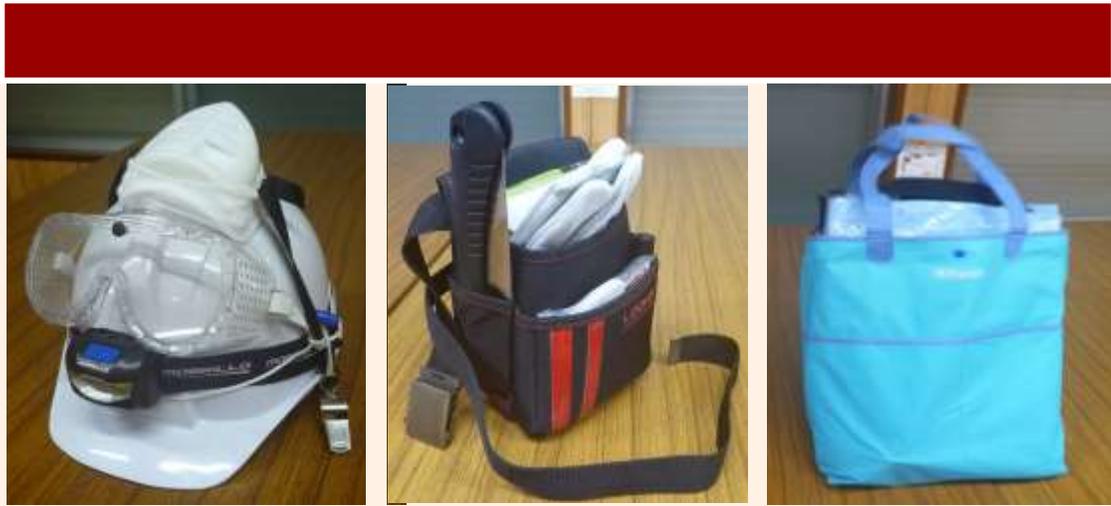
51.



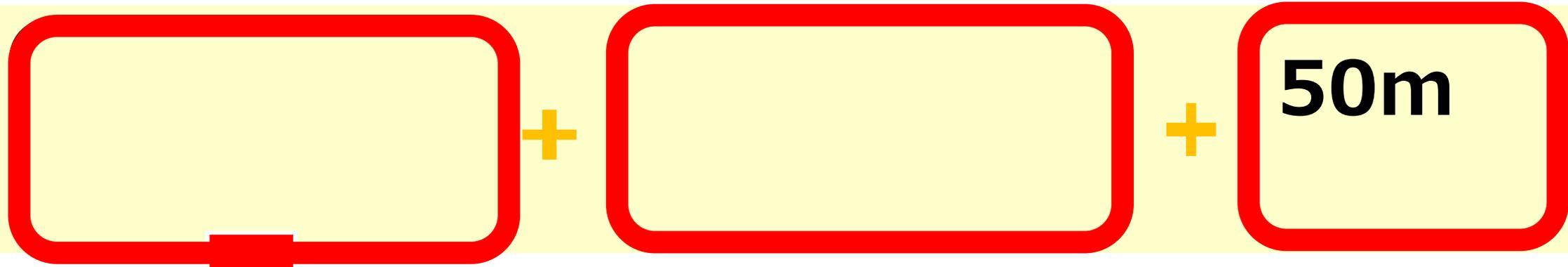
6

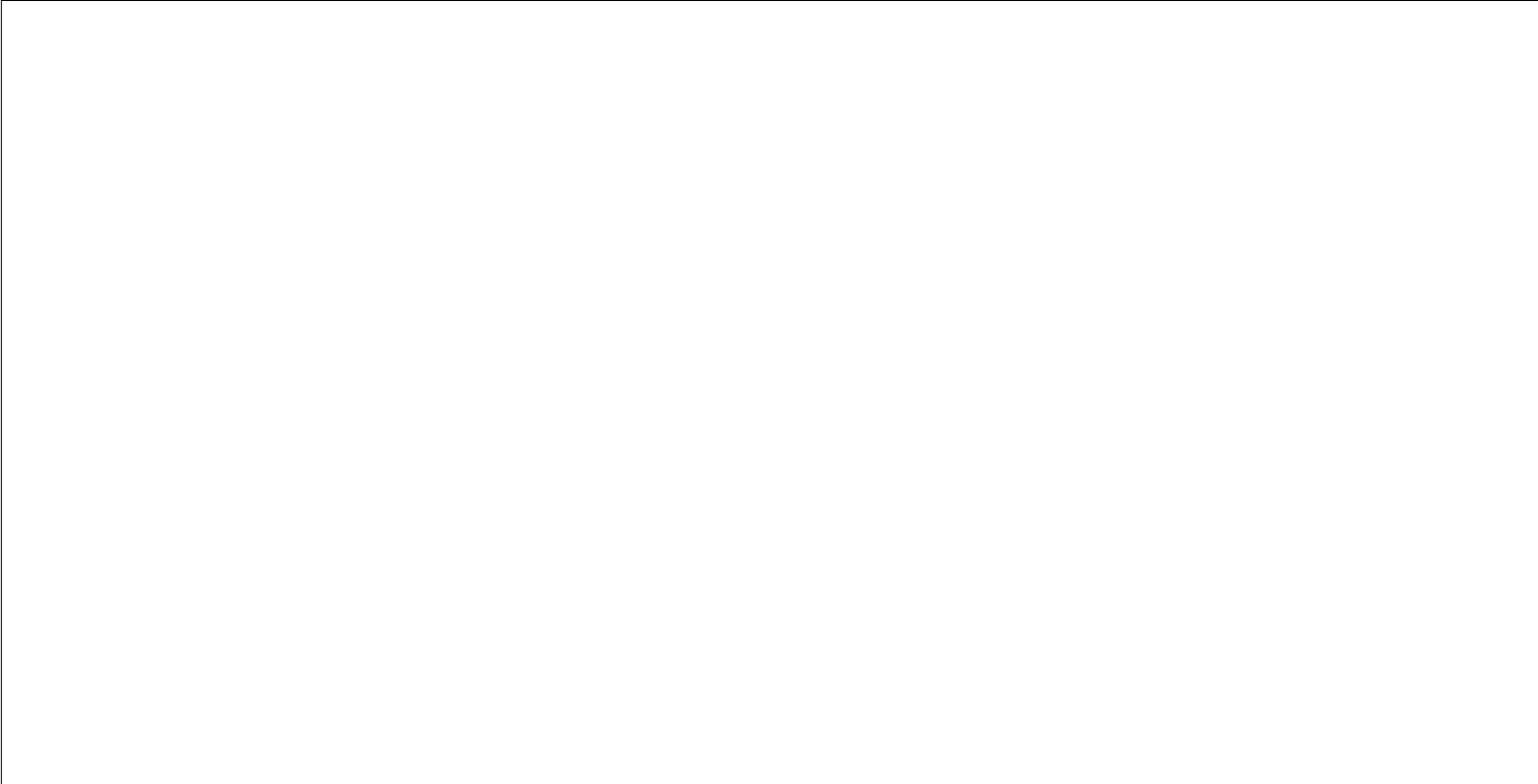
52.

災害現場に必要な最小限の資機材
を収納した小型収納車



53.







共助で命を救う!!

自主防災会 マニュアル

4

地震発生から『1時間以内』の救出策

二段構えの 近隣共助

直下型震度7!!

システムの解説

ポイントは2つ①20-40軒の小ブロックに資機材を置く。
②自主防災会の装備は『誰でも使える』ようにしておく。

参考文献：震度7 何が生死を分けたのか
NHKスペシャル取材班

油圧ジャッキで救助



油圧ジャッキ
アテ木

R3
2022.9.27

QQ防災クラブ

防災士 原田 剛

teamQQ244@gmail.com

お断り
私の自主防災会役員の経験に基づき、実施したり気付いたノウハウをご紹介致します。どこにでも適用できるとは限らないため、地域に合わせてアレンジして適用願います。

5. 『二段構えの近隣共助システム』運用の解説

■災害時の心理・行動に基づいた運用

→備えるだけで自然と近隣共助が動き出す

- ①「助けられる命」を優先して救助する。
50m圏(20~40軒)に「救命ボックス」を置き、近隣の人がそこに集まると「近隣共助」が始まる。
→『10分以内』の共助...Speed
- ②「歯が立たない現場」は防災倉庫にSOS!
救命ボックスの道具だけでは救出困難な場合、防災倉庫や自治会館の強力な道具を使う。
→『強力資機材』による共助...Power
- ③最も避けたい事態...「道具の取り合い」を防ぐ
救命ボックス内の道具すべてを1現場に使える。その条件が、20~40軒の小ブロックに分散!!
→『分散配置』による...All for 1現場



ブロック内の共助=近助
『10分以内』の共助...Speed
ブロック内に救助道具を置き、まずそこに集まり、近隣共助で助け合う!!

ブロック毎に『救命ボックス』を設置

防災倉庫までは、約200m

50m圏内(20~40軒) 最初に集まる場所 救命ボックス

自主防災会 エリアの共助
『強力資機材』による共助...Power
防災倉庫の資機材を使って、難しい現場に対応。

自主防災会 防災倉庫 自治会館 自治会避難場所(100~150軒)

『命を救う』シンプルなルール④

「心肺蘇生」は基本スキル!!
やっと助け出しても心肺停止の可能性があります。これができないと一生悔やまれます。

※長距離でも2-3人で運べるキャスター付きダンカがお薦め

『命を救う』シンプルなルール

- ① 必ず『救命ボックス』に集まる!!
人と道具が揃えば何とかなる。動ける人は救命ボックスに集まる。
- ② 『命を救う』優先順を考える!!
最優先は火事。次に人命救助。倒壊家屋があったら駆け付ける。
- ③ 救助が終われば次は『安否確認』!!
火事や救助の現場が終われば、次は全世帯の安否確認をする。

■救助のイメージ

第一段 救命ボックスからの「SPEED」の共助(10分以内)		第二段 防災倉庫からの「POWER」の共助(1時間以内)			
0分 自宅でシェイクアウト	2分 救命ボックスに集まる	10分 ノコギリ・パルで救助	20分 防災倉庫にSOS!!	50分 油圧ジャッキで救助	60分 タンカで搬送
					

■「救命ボックス」の紹介:共助の基点

収納品は『見ればわかる道具。誰でも使える道具』のみ



■「救命ボックス」を小ブロックに分散配置

- ①小ブロックにすることで、現場が1か所になる。
→道具の取り合いを防ぐことができる!!
(もっとも難しい判断をしなくて済む)
- ②現場のすぐ近く「人」と「道具」が集まる。
→『近隣共助』発動の最前線になる。
- ③小ブロック内には複数現場があったとしても50m圏と近いので、人・道具の共用・協力可能。

■「資機材の最適配置」が可能な運用

たとえばノコギリ:1,000円、チェーンソー:3万円。ノコギリで十分な現場と、チェーンソーが必要な現場があります。太い梁や柱を切るにはチェーンソーです。

□大きな防災倉庫に全道具を収納している場合
救助者心理として「もしかして使うかも」と考えるノコギリ・チェーンソーとも持って行くと思定されるチェーンソーは台数が少ないため、チェーンソーが本当に必要な現場に届かない可能性がある。

□二段構えの近隣共助システムの場合
近くの「救命ボックス」にはノコギリ。防災倉庫にチェーンソーがある。救助を急ぐ救助者心理として、最初は近くの「救命ボックス」でノコギリで対処する。が、無理だと判断した時点で、離れていても防災倉庫にチェーンソーを取りに行く。
→現場にない、必要な資機材が最適配置できる。

■二段構えの段階的導入のヒント

目的	解説	運用・備え
防災倉庫の資機材の災害時活用	誰でも開けられるように防災倉庫のカギを個人管理ではなく、倉庫に取り付ける。	ダイヤル式キボックス(3千円/台)
10分以内の救出を目指す運用	救出には「人」と「道具」が必要で、自宅のすぐ近くで手に入れられるようにする。	50m圏に救命ボックスを置き、そこに集まる運用にする。(9万円/台)
リーダーの負担を軽減する運用	「人・道具」に限られるため、救助現場が1か所になるようにブロックを20-40軒で分割。	脱エンジン電気式への移行
誰でも使える強力資機材	エンジン式工具は取扱いやメンテナンスが難しい。電動工具にすることで誰でも使える。	
人命救助	10分・1時間で救出するため心肺停止になっただけの要救助者が増える。	心肺蘇生の講習会受講

■キーボックス設置で「会長責任を軽減」

防災倉庫のカギ開け権限の意味で会長の責務カギの管理を「キーボックス保管」にして暗証番号を会員に周知するで誰でもカギを開けられる。→開けられない場合、会員の責任でもある。

※暗証番号を合わせると、誰でもカギを開けて、中の道具が使える。

※鍵には「ノコギリ・マジック・ハンチ・カムテーパー・ロープ」など

※ヘルメットにはマスク・ゴーグル・面・ヘッドライトをセット済み

※電池を入れていつでも使える状態

56.



57.

自信がなくて

責任が取れない

近頃が地味

とっさの本能的な行動。

58.

防災訓練で慣えること

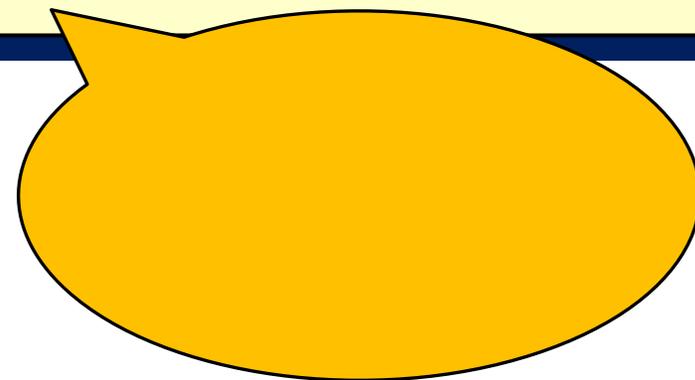
自信がなくて
責任が取れない

自信をもって「リーダーシップを発揮」してください。

No	
	!

「災害準備」は、災害の「要」を減らすのが目的です。

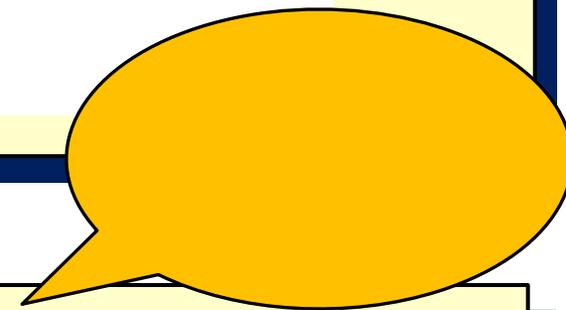
災害時、会長とはいえ「強制的な命令」はできません。



自主防災会活動は、「平時の備え・住民への周知」が重要

20

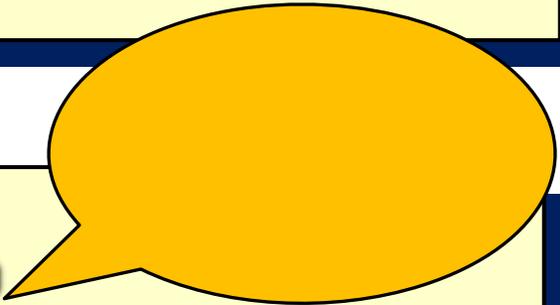
50m



これにより「避難地帯」が、効果的に指定せられる。

発生して、救助・消火が必要なら、まず「119 緊急通報」

「避難喪失の人」には、リーダーシップが必要。



62.

■ 震度7 !! 家が倒れ、火が出て、悲鳴が聞こえ…

「命に関わる判断」

「責任」

